



海外交流

大阪大学 世界言語研究センター デンマーク語研究室とデンマーク語

新谷 俊裕*

About Department of Danish, Research Institute for
World Languages, Osaka University, and the Danish Language

Key Words : Danish, Pronunciation, Spelling, Word Order, Numerals

1. デンマーク語研究室紹介

現在の大阪大学世界言語研究センターデンマーク語研究室のスタッフは、新谷俊裕教授（デンマーク語学）、田邊欧准教授（デンマーク近・現代文学、北欧文学）、石黒暢准教授（デンマーク現代社会、高齢者福祉論）、リーヴァ・ヒュデル＝サアアンスン外国人特任講師（社会言語学）の4名から構成されており、世界言語研究センターでデンマーク研究ならびに北欧研究を行なっているほか、大学院言語文化研究科言語社会専攻において大学院生の教育・指導にあたっています。さらに、スウェーデン語研究室のスタッフと協力し、かつ数名の非常勤講師の先生方のお手伝いを得て、外国語学部のデンマーク語専攻ならびにスウェーデン語専攻の学生の教育・指導にあたっています。デンマーク語は世界の約120の大学で教授されていますが、大阪大学のように1学年の学生数が約20名で、4名の専任スタッフを置き、多様な授業を提供している大学は世界でもそれほど多くありません。ちなみに、この外国語学部における取組が私たちの仕事の最も大きな比重を占めていると言えます。

さて、日本でデンマーク語専攻が置かれている大学は、私立大学の東海大学と国立大学の大阪大学の2校しかありません。東海大学はその建学そのものがデンマークの教育を原点にしていることを考えれ

ば、デンマーク語専攻を設置していてもなんら不思議ではありません（同校の校旗もデンマークの旗をアレンジしたものです）。では、大阪大学のデンマーク語専攻はどうなのでしょう？

大阪大学外国語学部のデンマーク語教育は1966年にその前身である大阪外国語大学にデンマーク語学科が開設されたことに始まります。日本の国公立大学における北欧語教育の誕生です。しかし北欧語のうちでアイスランド語、スウェーデン語、デンマーク語、ノルウェー語のうちのどれを最初に開設すべきかと問われれば、世界的情勢から見てふつうスウェーデン語という声が上がったものと思われますが、そうはなりません。当時おられた哲学の先生が偶然、デンマークの哲学者キェルケゴールをご専門とされた、大阪外国語大学名誉教授の大谷長先生（故人）であり、1958年から1965年までの8年間、研究外国語としてデンマーク語を教授されたことがこの背景にあると思われます。

デンマーク人の方々は、人口5百数十万の小国デンマークのことを学ぶ学生が毎学年20名もいることに必ず驚かれます。しかし、毎年何十万人もいる大学受験生の中には20名くらいは真剣にデンマークのことを学びたいと思う若者がいてもなんら不思議なことではないのではないのでしょうか。

2. デンマーク語について

本稿ではデンマーク語の特徴的な点を2、3、ごく手短かに紹介したいと思います。

2.1. デンマーク語の系統について

デンマーク語はインド・ヨーロッパ語族のゲルマン語派に属する言語です。ゲルマン語派の諸言語はさらに西ゲルマン諸語、東ゲルマン諸語、北ゲルマン諸語にグルーピングされます。西ゲルマン諸語に



* Toshihiro SHINTANI

1954年3月生
コペンハーゲン大学人文学部 言語学科
Magisterkonferens（博士課程）中退
現在、大阪大学 世界言語研究センター
ヨーロッパ・アメリカ言語文化圏研究部
門Ⅰ 教授 Cand.phil.（文学修士）相当
デンマーク語学
TEL : 072-730-5347
FAX : 072-730-5347
E-mail : shintani@world-lang.osaka-u.ac.jp

は英語、オランダ語、ドイツ語などが属し、東ゲルマン諸語には現在は死滅してしまったゴート語が属しています。そして北ゲルマン諸語 — これはノルド諸語とも呼ばれています — にはアイスランド語、ノルウェー語、デンマーク語、スウェーデン語が属しています。デンマーク語はスウェーデン語とともに東ノルド諸語に属するのでスウェーデン語に一番近いと思われるかも知れませんが、実際には、ノルウェーの首都周辺のノルウェー語の方がデンマーク語にはより近い関係にあります。これはデンマークが長い間ノルウェーを統治していたことが背景になっています。

2.2. 発音、カタカナ表記、文字について

デンマーク語には母音が、世代等の違いにより、16個から17個あります。母音が5個しかない日本語とは大違いです。しかも、狭い口の開きの中でいくつもの母音を区別しています。たとえば、日本語では「イ」と「エ」の2つの母音を区別している口の開きの中でデンマーク語では4種類の母音を区別していますので、これらの母音は日本人にとって聴き取るのも、自分で発音するのも非常に難しいものとなっています。

このように母音の多いデンマーク語をカタカナ表記することはまず無理なことですが、一般向けの文書では固有名詞をカタカナ表記する必要があります。近年世に出回っている印刷物におけるデンマーク語固有名詞の多くのカタカナ表記が実際の発音とはかけ離れた、恣意的で方針に統一性のないものが多いため、これを是正すべく、筆者は大阪外国語大学名誉教授の間瀬英夫先生と協同で『デンマーク語音のカナ転記方法の研究 — デンマーク語の固有名詞のカナ表記方法を視野に入れて』大阪外国語大学学術双書34・2005年、および新谷俊裕・大辺理恵・間瀬英夫編『IDUN — 北欧研究 — 別冊2号・デンマーク語固有名詞カナ表記小辞典』、大阪大学世界言語研究センターデンマーク語・スウェーデン語研究室・2009年を著わしました。これらに従うと、文学者アンデルセン Andersen はホー・スィー・アナスン、天文学者 Tycho Brahe はテュコ・ブラーア、物理学者 Ørsted はアアステズとなります。

ところで固有名詞以外はカタカナ表記しない方針なのですが、今回は、独自に開発した特殊文字を含

む発音記号を示すことができませんので、やむを得ずカタカナ表記を試みることにします。

さて、デンマーク語はローマ字を用い、英語でお馴染みのアルファベットに加え、Æ, Ø, Å があり、その名称と順番は以下のようになっています。

A (エー), B (ビー), C (スィー), D (ディー),
E (イー), F (エフ), G (ギー), H (ホー),
I (イー), J (ヨズ), K (コー), L (エル),
M (エム), N (エヌ), O (オー), P (ピー),
Q (クー), R (エア), S (エス), T (ティー),
U (ウー), V (ヴィー), W (ドベルトヴィー),
X (エクス), Y (ユー), Z (セト), Æ (エー),
Ø (ウー), Å (オー)

Q, W は外国語由来の固有名詞等でしか用いられません。また Y は前舌円唇母音で、言ってみれば、口の開きの狭目の「イ」を発音するときの舌の形で、「ウ」を発音するときのまるめた唇の形をして発音する母音です。Ø も同様に前舌円唇母音で、口の開きの広目の「イ」を発音するときの舌の形で、口の開きの狭目の「オ」を発音するときのまるめた唇の形をして発音する母音です。こういった前舌円唇母音はフランス語やドイツ語にもあります。R は母音の前では子音的発音になり、日本語や英語の R の音とは異なり、フランス語のパリ方言や高地ドイツ語のように、口蓋垂(のどちんこ)で発音する音ですので、今回はひらがなの「ら、り、る、れ、ろ」で示します。

デンマーク語の特徴は、特に母音の発音が難しいということに加えて、綴りと発音の関係が非常に複雑で、綴りと発音との関係に規則性がないものと、フランス語のように複雑ではあっても規則性があるものとが混在していますので、外国人が100%正確な発音をすることはまず不可能です。綴りと発音が一致しない例として次のものをご覧ください。

動 詞「フライパンで焼く」

stege スタイエ (不定詞形)

stegte ステクデ (過去形)

動 詞「上がる、昇る」

steg スティー (イ) (過去形)

名 詞「オーブンで焼いた肉」steg スタイ

形容詞「すばらしい」dejlig ダイリ

名 詞「天気」vejr ヴェーア

2.3. 語順

語順は英語とほぼ同じです。本誌前号のスウェーデン語の清水育男先生の示されている例文の一部をお借りして、その関係を示したいと思います。

(注: *det* = 英 "it", *är* = 英 "am/is/are", *jag* = 英 "I", *der*, *som* = 関係代名詞 英 *who/that*):

デ *Det er varmt nu!* ディ エア ヴァーム トヌ
ス *Det är varmt nu!*

英 "It is warm now."

デ *Jeg spiser ofte et æble og et æg.*

ヤ スピーサ オフテ イト エーブレ オイト エーク
ス *Jag äter ofta ett äpple och ett ägg.*

英 "I often eat an apple and an egg."

デ *Jeg sender Erik en bog.*

ヤ セナ イーレク イン ボーウ

ス *Jag sender Erik en bok.*

英 "I send Erik a book."

デ *Jeg kalder ham (= "him") Erik.*

ヤ カラ ハム イーレク

ス *Jag kaller honom Erik.*

英 "I call him Erik."

デ *Jeg ser en mand der sidder på værelset.*

ヤ スィーア イン マンダ スィザ ポ ヴェアアルセズ
ス *Jag ser en man som sitter i rummet.*

英 "I see a man who is sitting in the room."

ただし、語順が英語とほぼ同じと言っても、上の例文の *Jeg spiser ofte et æble og et æg.* 英 "I often eat an apple and an egg." のように、定形動詞の *spiser* が常に文の2番目の位置に来るという規則があるなど、英語とは異なる規則もあるのも事実です。

2.4. 数詞

数年前に「フランス語は数を勘定できず、国際語として失格」という趣旨の発言をして物議を醸した、どこかの知事さんがいました。確かにフランス語は70以上の数詞は10進法と20進法が組み合わさったような複雑な様相を呈しています。例えば、70は(60 + 10)、71は(60 + 11) ...、80は(4 × 20)、81は(4 × 20 + 1) ...、90は(4 × 20 + 10)、91は(4 × 20 + 11) ... のように言います。しかし数詞が難しいからと言って論理的思考ができないわけではなく、フランスからは大文豪や芸術家だけではなく、優秀

な数学者や科学者も大勢輩出されていることは周知の通りです。

さて、デンマーク語も数詞に関してはかなり複雑です。1から12までは同じゲルマン語に属する英語やドイツ語に似て、12進法、13から40までは10進法です。

1 (en イーン), 2 (to トー), 3 (tre トレー),
4 (fire フィーア), 5 (fem フェム), 6 (seks セクス),
7 (syv スュウ), 8 (otte オーデ), 9 (ni ニー),
10 (ti ティー), 11 (elleve エルヴェ), 12 (tolv トル),
13 (tretten トレデン), 14 (fjorten フィヨアデン),
15 (femten フェムデン), 16 (seksten サイスデン),
17 (sytten スデン), 18 (atten アデン),
19 (nitten ニデン), 20 (tyve テューヴェ),
30 (tredive トラズヴェ), 40 (fyrre ファアア)

しかし50から90までは20進法となります。しかもその数え方に帯分数を用いるなど複雑極まっています。下の50から90の構造をご覧ください。

50 : halvtreds, halvtredsindstyve [" halvtredje "・
" sinde "・" tyve " $2\frac{1}{2} \times 20$]

60 : tres, tresindstyve [" tre "・" sinde "・" tyve " 3×20]

70 : halvfjerds, halvfjerdsindstyve [" halvfjerde "・
" sinde "・" tyve " $3\frac{1}{2} \times 20$]

80 : firs, firsindstyve [" fire "・" sinde "・" tyve " 4×20]

90 : halvfems, halvfemsindstyve [" halvfemte "・
" sinde "・" tyve " $4\frac{1}{2} \times 20$]

ふだんは左の短い形を用いて、50 (ハルトレス)、60 (トレス)、70 (ハルフィエス)、80 (フィアス)、90 (ハルフェムス) と言います。

60と80は単に[3 × 20]、[4 × 20]ですが、50、70、90では帯分数 $2\frac{1}{2}$ 、 $3\frac{1}{2}$ 、 $4\frac{1}{2}$ が用いられています。このため、50、70、90は特にマスターしにくい数字となっています。

これに加えて、20を超える二桁の数字になると、ドイツ語同様、一の位を先に言い、十の位を後に言います。つまり、例えば51は[ごじゅう・いち]ではなく enoghalvtreds (イーン・オ・ハルトレス)、すなわち[いち・と・ごじゅう]と言います。これは日本語や英語とは異なり、慣れるのに少なからず時間を要します。また、慣れたとしても、電話がかかってきて相手の電話番号をメモしなければならな

いときなどには、51 と聞こえたら、1 を先に書き、次にその左に5 と書かなければ、相手の話のスピードにメモする手が追いつかないことがあります。ちなみに、デンマーク語では例えば、35 4789 という

電話番号は二桁の数字に分けて〔さんじゅうご・しじゅうしち・はちじゅうきゅう〕のように言うからますます難しくなります。

En kort præsentation af danskafdelingen på Research Institute for World Languages, Osaka Universitet

Professor Toshihiro Shintani

I denne artikel beskriver jeg historien bag og de nuværende forhold ved danskafdelingen på Osaka Univesitet.

Danskafdelingen på Osaka Universitet blev oprettet i 1966 ved det tidligere Osaka

University of Foreign Studies – grunden til at dansk blev valgt frem for svensk, var uden

tvivl at den daværende filosofi-professor, Masaru Otanis indsats og indflydelse var stor, og i

1985 blev svenskafdelingen også oprettet. Siden da har vi i tæt samarbejde med svenskafdelingen drevet nordisk forskning og undervisning. For tiden arbejder der følgende

personer på danskafdelingen: Toshihiro Shintani (professor i dansk sprog), Uta Tanabe (associate professor i dansk og nordisk litteratur), Nobu Ishiguro (associate professor i

